
令和5年度 地域医療フォーラム

「糸魚川で安心して子どもを産み育てる」 開催内容 概要版

■日時 / 令和5年7月30日（日） 13:30～

■会場 / ビーチホールまがたま

開会のあいさつ（糸魚川市長 米田 徹）

「地域医療フォーラム」は、市民の皆様から、地域医療の現状を知っていただく機会として開催しており、今回は、「糸魚川で安心して子どもを産み育てる」と題しまして、今後のお産・子育てをテーマに開催いたします。

既にご承知のことと思いますが、糸魚川総合病院では、富山大学の医師派遣協力のもと、2名の産婦人科医師で診療を行って参りましたが、医師の退職等により、令和5年4月から分娩の取り扱いを休止しております。現在は、本日ご講演をいただきます日高先生が着任され、黒部市民病院等と連携を図り、妊婦さんの妊娠・分娩管理を安心・安全にサポートできるよう取り組んでいただいているところであります。

市と糸魚川総合病院といたしましては、並行して、市内での分娩が再開できるよう、新潟県とも協力・連携し、産婦人科医師の確保に努めているところであり、限られたチャンスを生かし、糸魚川総合病院と連携し、医師確保につなげられるよう取組を進めて参ります。

今後、分娩が再開できるまでの間は、地域の関係機関が連携し、本日紹介させていただきます、新たな形での妊産婦支援にも全力で取り組んで参りますので、皆様のご理解・ご協力をよろしく願いいたします。

○第1部 周産期医療の現状と課題

講演

周産期医療の現状と課題等について、糸魚川総合病院の医師・助産師、糸魚川市教育委員会事務局こども課の担当者が講演を行いました。



「糸魚川地域の現状と糸魚川総合病院の取り組み」

糸魚川総合病院産婦人科部長 日高隆雄 医師

糸魚川地域の現状（分娩取り扱いの休止）

4月から分娩の取り扱いは休止、現在は、産婦人科を外来中心の診療とさせていただいている。これは安心安全な周産期妊娠分娩の医療には、やはり複数名の産婦人科医が必要であり、現在、糸魚川総合病院は私1人で、この複数名というマンパワーの維持が極めて困難な状況に至ったということで、分娩取り扱い休止という苦渋の判断となっている。しかし、多くのサポーターのご協力を得て、安心して妊娠出産ができるような環境が整ってきたので安心いただきたい。

複数名の産婦人科医が必要な理由

元気な赤ちゃんが生まれて当たり前と思っておられる方がほとんどかと思いますが、順調な分娩と思われても、約20%（5人に1人程度）で、胎児の状況が急に悪化する場合がある。これらには、緊急帝王切開、吸引分娩等、1人ではなく複数名の産婦人科医での緊急対応が必要となってくる。

産婦人科医師数の現状

産婦人科医の数はなかなか増えていない。令和2年の医師歯科医師薬剤師統計という厚労省が発表したデータによると、平成8年の医師数と比較し、医師全体の数は、令和2年の状況で1.41倍、約40%増えているということだが、産婦人科は0.99倍、ほぼ横ばいという現状になっている。増えてはいないし減ってもいないと一見思うが、高齢等で分娩をとらなくなる産婦人科医が増えているので、将来的には第一線で分娩を担当する医師数は徐々に減少していったらというのが現状である。

10年後の産婦人科医師数

東京、神奈川、山梨、大阪などの都会は、10年後は10%以上産婦人科医が増えるの見込まれているが、新潟を始め福島、石川などの地方の県は、なかなか産婦人科医不足の解消は厳しく、10年後はさらに厳しくなるということが想定されている。このような産婦人科医の偏在は、ますます厳しくなり、中でも残念だが、新潟県は厳しい地域として想定されている。

ハイリスク（危険度の高い）妊娠・分娩の増

35歳以上を高年齢出産というふうに定義しているが、平成30年では全体の30%を超えている。また、40歳を超える高年齢出産も多く認められ、言うまでもなく晩婚化、晩産化によりこのような状況になっている。高年齢出産が増えると、妊娠糖尿病や妊娠高血圧症候群などの合併症が増加し、赤ちゃんとお母さんに対し非常に集中した経過観察・治療が必要になってくる場合も多くなる。

周産期医療提供体制の「集約化・重点化」構想

今までお話ししたように慢性的な産婦人科医不足かつハイリスク妊娠・分娩も増加しているという背景の中で、周産期医療の質の確保、不足している産婦人科医の負担軽減という二つの大きな命題に対し、当然だが少ないマンパワーで質の高い周産期医療の確保や24時間365日頑張れというのは、なかなか難しい。加えて、医師の働き方改革という流れもあり、周産期医療提供体制の「集約化・重点化」構想というのが出てきた。これは、産科の開業医さんや小規模分娩施設を地域の周産期母子医療センターに統合しようというものであり、その施設には6名以上、可能であれば8名以上の医師を配置することを目標にしようという構想である。

安心・安全な周産期医療連携体制構築に向けての取り組み

周産期医療の「集約化・重点化」の一方で、糸魚川総合病院も含む上越地区と、富山県の黒部市民病院を含む新川地区のちょうど境目、新潟と富山の境目に「無産科周産期医療圏」、いわゆる分娩をカバーできない地域ができてしまったということである。これは、糸魚川だけではなく、全国的に見ても、特に福島県、山形県、秋田県、青森県など、「集約化・重点化」の反面、このような地域ができてしまっているという現状がある。この状況を何とかするためには、県という枠組みにとらわれない医療圏の境界を越えた周産期医療の構築が必要となってくる。現在、糸魚川総合病院は、新潟県立中央病院との周産期医療連携体制を構築してきている。そして、富山・新川地区の黒部市民病院とも周産期医療連携を構築してきており、この連携体制によって、糸魚川の妊婦さんの妊娠・分娩管理を24時間365日、安心・安全にサポートするということが可能にすべく頑張っている。

周産期医療連携体制の構築に必要なこと

糸魚川総合病院の方からお願いするので、各々の病院に丸投げするような形では信頼関係は構築できないため、我々もそれ相応の連携体制管理を分担しなければならない。妊婦さんが遠方の地域の病院に何回も通う負担を軽減するため、半分は我々の糸魚川総合病院で分担しようということになる。一般的な妊婦健診スケジュールのうち、前半期は、安定している患者さん

においては約半分を糸魚川総合病院で健診するという事で通院に関する負担が軽減できると考えている。妊娠後半期、分娩が近づいてくる頃になると分娩を視野に置いた管理が必要になってくるため、黒部市民病院、県立中央病院にお願いしてフォローしていただくことになる。産後ケアに関しても、順調なケースの場合は、産後2週および1か月健診は、糸魚川市のこども課やNPOのラ・マドレさんとも連携して管理ができる。

また、情報共有システムの構築は、黒部市民病院の情報システムを使い、妊婦さんの同意のもとに電子カルテの診療情報を共有できるものであり、妊婦健診等の診療の質が向上するものと考えている。

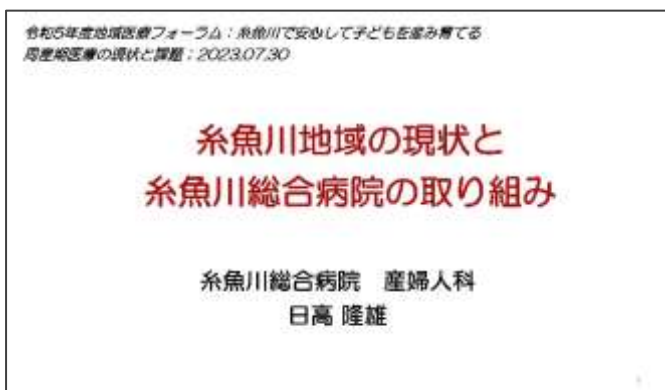
救急搬送等の地方特有の問題

救急搬送・移送に関する地方特有の問題として、分娩施設が少ないことに加え距離の問題がある。新潟県立中央病院、上越総合病院、黒部市民病院まで約50kmの距離があり、通常は約1時間かかる。状況によっては救急搬送をお願いせざるを得ないこともあり、消防や民間タクシーとの連携体制が必須である。また、分娩施設までのアクセス不良地域や気象状況により交通が遮断されるような陸の孤島への対応も重要であり、バックアップ体制を考えているところである。

最後に

妊産婦のサポーターとして、先ず我々糸魚川総合病院としては、糸魚川地域に妊産婦難民は絶対作ってはならないという強い危機感を持ち、病院長・看護部長を中心に、後ほど説明があるが、バースプロジェクトを今年の2月に立ち上げた。そのプロジェクトに基づき、産婦人科医、小児科医、助産師、看護師も具体化に向けて一生懸命頑張っている。また、NPOのラ・マドレさんとも産後ケア等の連携をしており、これらの体制を糸魚川市、新潟県がバックアップ、サポートしていただいているということである。また、救急搬送に関しては、市消防本部、民間タクシーの協力も得られている。そして、妊産婦さんのために、ご両親ご家族もできるだけご理解ご協力をお願いしたいと思っている。

多くのサポーターのご協力で、糸魚川地域で妊娠・出産を希望する女性が心配することなく、安心・安全に希望をかなえられるという環境が、かなり整ってきた。不十分なところは、ぜひともご指摘いただき、より強固な妊産婦を守る輪を作っていけたらと考えている。





「糸魚川市の妊産婦支援制度について」 ～ 安心して産み育てるために ～

糸魚川市教育委員会事務局 こども課

糸魚川市の現状等

平成 30 年度までは年間 200 件以上の妊娠届出があったが、令和 4 年度は 130 件に減少している。届出時の面談では、子育てのことや経済的なことその他、市内で出産できなくなったことに伴い、医療機関までの交通手段や緊急時の対応等についての心配の声が寄せられている。

本日は、出産・子育て応援事業、妊産婦健康診査費用助成、出産時交通費助成事業、出産時宿泊費助成事業、妊婦情報事前登録制度、子ども誕生お祝い事業、産後ケア事業について、ご説明させていただく。他の事業については、お配りした「糸魚川市の子育て応援ガイド」を後ほどご確認ください。（※応援ガイドは、市ホームページにも掲載）

出産・子育て応援事業

全ての妊婦・子育て家庭が安心して出産、子育てができるよう、経済的支援と伴走型相談支援を一体とした「出産・子育て応援事業」を令和 5 年 3 月より開始している。経済的支援では、妊娠、出産、子育てに係る費用の負担軽減を目的に、出産応援ギフトとして妊婦さん 1 人あたり 5 万円、子育て応援ギフトとして新生児 1 人あたり 5 万円を現金で給付している。伴走型相談支援では、妊娠期から出産・子育て期まで相談に応じ、必要な支援につなぐことを目的に、妊娠届出時や妊娠 7～8 か月頃、2 か月児訪問などに保健師、助産師が面談を行っている。妊産婦さんにとって身近な保健師や助産師であるよう、丁寧な対応を今後も継続していく。

妊産婦健康診査費用助成

妊娠中の妊婦健診や産後の産婦健診の健診費用の助成を行っている。健診費用の助成があるので、経済的負担を軽減することができ、安心して妊婦健康診査を受診することができる。

出産時交通費助成事業

陣痛等で緊急に受診が必要なとき、産科医療機関までタクシーを利用した場合の費用を 1 回の出産につき 1 回まで、30,000 円を上限に助成を行っている。事前に「1 回の出産につき 1 回限りの助成としたのはなぜか。」「自家用車を使うことへの助成ではないため、自家用車がなく、タクシーを使う人への支援では限定すぎる。」というご質問・ご意見をいただいている。陣痛がきた場合、ほとんどの妊婦さんはご家族の送迎で医療機関に向かっており、信頼できるご家族が送迎してくれることが安心につながる。しかし、いざ、という時にご家族が不在、運転

できない等の理由で交通手段がない場合に、タクシーを利用できるよう制度を作った。産婦さんからお話を伺う中で、ご家族の方が送迎できなかったということが少ない状況であり、1回の助成とさせていただいている。また、妊婦健診や陣痛時の受診の際にかかる交通費の支援としては、後ほどご説明する子ども誕生お祝い事業で商品券の贈呈額を増額している。

出産時宿泊費助成事業

出産準備のために医療機関の近隣にあるホテル等の宿泊施設に宿泊した場合の費用の一部を助成する。糸魚川市に住所がある妊婦さんと旦那さん等の付添人の方が対象となり、1泊あたり5,000円を上限に、妊婦さんは出産日直前の5日間、付添人の方は出産日前後5日間で宿泊した5泊分の費用を助成する。

妊婦情報事前登録制度

緊急時に担当医師の指示のもと、医療機関へスムーズに救急搬送できるよう、妊娠や出産に関する情報を消防本部へ登録することができる。妊婦さんやご家族が不安を感じる場合は、医師の判断を聞き119番へ通報をしてもらう。

子ども誕生お祝い事業

次世代を担うお子さんの誕生をお祝いするとともに、健やかな成長を願い、子育て世帯の負担の軽減を図るため、出生の届出をされた保護者の方にお祝い品を贈呈している。経済的な支援については、第2部で詳しく説明する。

産後ケア事業

心身ともに不安定になりやすい産後の時期に、お母さんと赤ちゃんの健康を守り、健やかな育ちを支援するため、助産師等によるケアを提供しており、発育発達の確認や沐浴指導、育児相談、授乳指導等を受けることができる。訪問型と日帰り型を実施しており、訪問型では糸魚川総合病院やラ・マドレの助産師さん等が産婦さんを訪問しケアを行う。また、日帰り型は糸魚川総合病院の一室を利用し、助産師さんによるケアや休息を取ることができる。産婦さんが安心して産後を過ごすことができるよう、産後の悩みがある、心身の回復に不安がある、体を休めたい、助産師さんに相談したいと思った時にはご利用いただきたい。

最後に

子育て世代包括支援センター「こども支援室」には、保健師、助産師、看護師、栄養士、臨床心理士、家庭児童相談員など、妊娠、出産、育児に関する専門職が在籍している。妊産婦さんが安心して妊娠、出産、子育てができるよう、妊娠期から子育て期まで切れ目なく寄り添った支援を今後も継続して行っていくので、心配、不安や制度のことで分からないことがあれば、お気軽にご連絡、ご相談いただきたい。





「BirCE (バース) プロジェクト」

～ 当院の新たな産婦人科のかたち ～

糸魚川総合病院 藤井こころ 助産師

BirCE (ばーす) プロジェクト

これまで糸魚川での唯一の分娩施設であり、多くの方にご利用いただいていた当院だが、残念ながら、今年3月より、分娩休止となった。そのことで、これからの妊娠出産に不安を抱いた方もきっと多いのではないかと。そんな中、糸魚川市で安心して子供を産み育てるために、私たち助産師を中心とし、糸魚川総合病院で始まった活動がバースプロジェクトである。バースプロジェクトには3つの柱となる取り組みがある。この活動の根本には、糸魚川総合病院で出産はできなくなってしまった、しかし、産む以外のところ、妊娠に至るまでの全ての女性の悩み、妊娠してから出産まで、そして出産後から子育て、そして更年期にいたるまで、全ての女性のサポートは今までと変わらず実施していく、ということがある。つまり、当院、糸魚川できないのは妊娠、出産、産後の、出産の場面だけなのである。それ以外のことは変わらずサポートしていけるよう、全力で現在システムづくりをしている。

妊娠から出産までの流れ

その一つとして、当院で新しく体制づくりが進んでいる、産前、産後サポートを紹介する。産前については日高医師の講演にもあったように、当院では妊娠の診断、出産場所の選択に関する情報提供は、以前と変わらず行っている。また、近隣の病院と連携し、妊婦健診を当院でも受けられるような体制を作った。

黒部市民病院と連携した妊婦健診

連携病院での分娩を選択していただくと、妊娠前期から中期の妊婦健診のうち5回は当院で健診をしていただける。その際、健診の情報は連携病院とカルテを共有するシステムを構築しており、きちんと情報交換した上で健診を受けていただけるため、安心して妊婦健診を受けていただける。また、もちろん連携病院以外の病院の情報もお伝えし、そちらを希望される方には、そちらで受診ができるよう紹介させていただく。連携病院で出産された方では、出産後も経過が順調な方は、赤ちゃんもお母さんも1か月健診を当院で受けさせていただくことができる。

産後ケア

産後サポートについては、これまで糸魚川市と連携し実施していた産後新生児訪問や、おっぱい外来は引き続き実施している。これまでは当院で出産したママと赤ちゃんのみを対象とし

ていたが、現在は提携病院で出産した方はもちろん、それ以外の施設で分娩された方も市からの依頼で当院の助産師も訪問に携わらせていただいている。特に連携病院とは、カルテの共有システムを使い、出産、産後入院中の情報を把握した上で関わらせていただくことで、より効果的に産後ケアにつなげられるよう体制を整えていきたいと思っている。

また、新たな取り組みとして、6月よりデイケア事業を開始した。産後のママの要望に沿って、ママの休息や育児相談などサポートする取り組みである。事前にご予約を入れていただき、9時から16時30分までの一日を当院の4病棟にある産後ケアルーム、完全個室で過ごしていただける。現在は産後4か月程度までの赤ちゃん和妈妈が対象で、退院後すぐの利用も可能となっている。例えば、おっぱいが軌道にのらず、退院後自宅で不安だ、1日の授乳の様子をみてアドバイスしてほしい、沐浴に自信がなく指導を受けたい、赤ちゃんを預けて一日ゆったり休みたいなど、どんなご希望でもまずはご相談いただきたい。その方の希望に沿って、個別にスケジュールを相談させていただく。

利用費用は、7回分は全額市からの助成が適応となり、実質無料で利用できるサービスとなる。ママのご要望に寄り添って、おっぱい相談や沐浴、ご希望時にはママが休めるよう、授乳の間赤ちゃんのお世話を代行させていただいたり、リラックス効果のあるアロママッサージなどを助産師が実施させていただくこともできる。おむつやミルクなどの必要物品もこちらで用意するため、大きな荷物を持ってきていただく必要もない。もちろん日頃の心配事、悩み事などもご相談いただき、必要があれば、滞在中に産科医や小児科医師の診察を受けることもできる。

そして8月からはショートステイ型（短期宿泊型）の導入も予定している。こちらも市からの助成があり、基本的なサービス内容はデイケア型と同じだが、夜間の授乳に悩んでいる方などはこちらの利用もおすすめである。実際に利用しようか迷っている方でも、興味のある方は是非一度、糸魚川総合病院4病棟の方にお問い合わせいただきたい。また、ホームページにもサービスの情報を掲示しているのでご覧いただきたい。

最後に

本日は、バースプロジェクトのなかの取り組みの一つをご紹介させていただいた。全力で糸魚川のママや赤ちゃんのサポートをしていきたいという助産師を中心とした糸魚川総合病院の思い、そのための糸魚川総合病院での取り組みを是非みなさんに広く知っていただき、安心して糸魚川で子供を産み育てていただくことを目指して、これからも活動していきたい。



○第2部 今後のお産・子育てに関する疑問にお答えします

座談会

今後のお産・子育てに関する疑問等について、糸魚川総合病院の病院長が進行する座談会形式でお答えしました。



【進行】山岸文範 医師
(糸魚川総合病院 病院長)

【発言者】日高隆雄 医師
(糸魚川総合病院 産婦人科部長)
藤井こころ さん
(糸魚川総合病院 助産師)
横澤亜希子 さん
(糸魚川産後ケアセンター La madre 代表)
飛弾野 郁 さん
(市教育委員会事務局 こども課 親子健康係長)
佐藤 孝之 さん
(市消防本部 警防課 救急係長)

【産前支援】

【質問】妊娠診断や妊婦健診は、糸魚川総合病院で受けることはできるのか？

妊娠したのかどうか、妊婦さんによっては、ご自宅で市販の妊娠判定薬で陽性と確認して来られることがあるが、病院では尿の妊娠ホルモンのチェックやエコーで子宮内の胎児の確認をして妊娠の診断をする。もちろん糸魚川総合病院でも可能なので、ぜひ来ていただいて、一緒にエコーを見て実感していただきたい。とにかく、気になることがあったら来ていただければ診断させていただく。診断からその後の手続きのことなど疑問点があれば、助産師がお答えさせていただきます。また、分娩施設が決まっていない方も選択の相談等にも乗せていただく。

(糸病：日高 医師)

連携病院での出産を選択された方は、5から6回は当院で妊婦健診となるので、その際にも必要な指導、妊娠中の過ごし方、悩み相談などをさせていただきます。もちろん連携病院を選んでいただいた方は、そちらの病院の助産師の方からも指導・アドバイスが受けられる。イメージとしては2つの施設で役割分担をしているというよりは、支援が強化されて、二重の手厚い支援が受けられるというふうに考えていただければよいかと思う。また、交通面でも負担が軽減されることと、近くの病院にやっぱり対面して喋る助産師がいるということは妊婦さんにとってすごく心強いことだと思っているので、ぜひ当院の外来を利用していただきたい。

(糸病：藤井 助産師)

【質問】タクシーは禁煙車を配車するなどの配慮をしていただけるのか？

基本的に現在、全て禁煙車と聞いている。また、出産時交通費助成としてお願いしているタクシーには、防水シート、バスタオル、手袋などを用意してもらっている。もしも、車内で破

水してしまってシートを汚してしまったらどうしようかと心配な方もおられるかと思うが、安心してご利用いただきたい。

(市 こども課：飛弾野 係長)

〔質問〕市の出産時宿泊費助成事業は、どのような妊婦さんや家族を想定しているのか？

糸魚川市の場合、国道8号や高速道路が利用できなくなると産科医療機関まで行けなくなる可能性がある。分娩予定日が近づいて、大雪や台風などの悪天候が見込まれる際など、事前に産科医療機関に近い施設に宿泊すること等を想定している。また、付添人に関しては、コロナ禍で医療機関での付き添いが困難なこともあったので、出産日前後の5日間のうち5泊できるようにになっている。出産された後、近くの宿泊施設から面会に行くことも想定している。

(市 こども課：飛弾野 係長)

〔質問〕市の子育て支援は手厚いので、ホームページ等でもっと分かりやすく教宣して欲しい！

妊娠届出や出生届の際に対象となる方には、個別に内容をお伝えさせていただいているが、多くの市民や糸魚川市外の方に分かりづらいというお声もいただいている。今年度、本日、お手元に配布させていただいた「子育て応援ガイドブック」を作成したので参考にご覧いただきたい。今後も子育て支援の内容が分かりやすくなるようホームページ等を工夫していきたい。

(市 こども課：飛弾野 係長)

〔質問〕現在妊娠中で上越の病院に通っているが、車で45分前後かかるため、緊急時心配である。

妊婦情報事前登録の有無に関わらず、救急の出動要請があればいつでも救急車が出動する。妊婦さんお一人お一人で状況が異なるかと思うので、腹部の痛みや張り、破水や出血などの症状がある場合は、基本的に出産予定医療機関に連絡し症状等を伝えていただき、主治医から救急車での搬送指示があれば救急車の出動を要請していただきたい。なお、主治医から個人での受診を指示された場合でも、自家用車やタクシーで受診することに本人やご家族が不安な場合には、遠慮せずに救急車の出動を要請していただきたい。

(市 消防本部：佐藤 係長)

【産後支援】

〔質問〕市内で出産した場合、5万円の支援を頂いたが、今後はどのようになるのか？

昨年までは糸魚川総合病院で出産された場合に、市内産科維持という目的のもと出産奨励金として5万円をお渡ししていたが、現在の支援について、経過を追って説明させていただく。まず妊娠届け出された際である。保健師や助産師との面談後に申請していただくことで、出産応援ギフトとして5万円を口座に振り込ませていただく。こちらは、マタニティ用品などの育児関連用品の購入にお役立ただければと思う。次に、出生届けの際である。こちらは、子ども誕生お祝い品として従来から市内共通商品券2万4000円分をお渡ししているが、今回の分娩休止に伴う交通費相当分の支援として5万円分を加え、合計7万4000円分をお渡ししている。その後、保健師や助産師が行う2か月児訪問の際に申請していただくことで、子育て応援ギフトとして5万円を口座に振り込ませていただく。こちらは、産後のお母さんの体を休め

ることや育児の勉強のために使っていただくことも目的としているので、産後のヘルパー利用、産後ケアの利用などにお役立ていただければありがたい。この他、現金ではないが、妊産婦健診の費用約 14 回分を受診票という形でお渡ししている。

健診費用は、自己負担いただいた場合と比べて 10 万円以上ご負担が軽減するようになっている。また、妊娠中から出産した翌々月の末日までというような妊産婦医療費の助成もさせていただいているので、妊娠中から出産にかけてはかなり多くの経済的支援がある。

(市 こども課：飛弾野 係長)

〔質問〕小児科とも連携したサービスを提供できないか？

通常の 2 週間健診、産後の 2 週間健診、並びに 1 か月児健診に関しては、何回も来院しなくても済むよう小児科と同一日に診療できるような体制を整えることとした。また、産後の乳房のトラブルや赤ちゃんの様子が心配でこのまま見ていいんだろうかと不安に思う方もおられるかと思うが、こちらも小児科との連携が取れているので病院へ来ていただければ安心かと思う。

(糸病：日高 医師)

1 か月児健診になる前でいえば、おっぱい外来や産後新生児訪問は今も継続させていただいているので、そちらの方で小児科の診察が必要と判断した場合やお母さんが赤ちゃんのことで悩んでいるというのがあれば、その時点で当院の産科や小児科を紹介、受診の手配をさせていただく。小児科、産婦人科が揃っていることが当院の強みであるので小児科との連携はしっかりと対応していく。

(糸病：藤井 助産師)

〔紹介〕糸魚川産後ケアセンター La madreについて

事業内容について紹介させていただく。まずは居宅訪問型(アウトリーチ)。おおむね産後 1 年目未満の方を対象に訪問を受け付けている。NPO 法人となったので、今後は市の委託を受けて実施できるようになっていくと思うので現在準備中である。次に通所型(デイサービス)。こちらは個別型と集団型があるが、現在は主に公民館を用いて集団型で、何か一つの目的を決めて、みんなにお集まりいただいて楽しい時間を過ごしたり、運動をしたりというような活動を展開している。その中で個別型で少し相談を受けたりというようなところも一部行っているが、産後ケアというよりはどちらかというと産後サポート事業に近い感じで活動している。それから将来的にやりたいと思っているのが、短期入所型(ショートステイ)である。こちらは、糸魚川総合病院さんが事業をスタートしてくださるので、糸魚川のお母さんたちは、きっとすごく安心感があるんじゃないかなと思っている。ショートステイについては焦らずに準備が整い次第、民間には民間の良さがあると思っているので、いずれは実現できればいいなと考えている。

現在、NPO 法人パレットは 20 名のワーカーがおり、半数が助産師・看護師で、残りの半分が保育士や会計士、ピアノ講師など、それぞれ色々な強みを持ったメンバーが揃っている。今は市内で分娩することはかなわないが、メンバーみんなで力を合わせ、子育て経験者も非常に多いので、妊娠中から育児期間の女性の安心を願い、アイデアを出しながら活動している。

私達のモットーは、出産を経験した全ての女性に産後ケアをということで、産後ケアを受けることが特別なことではなく、ちょっと体がつらい時、ちょっと他の人と楽しく時間を過ごしたい時に気軽に利用できるアットホームな民間ならではの産後ケアを提供していきたいと考えている。

(La madre 横澤 代表)

最後に

「出産を糸魚川市内でできるよう、糸魚川総合病院産婦人科の再開を切望しております」という当然のご意見もいただいている。これに関しては、日高先生の講演にもあったように、全国の大学病院は集約化を始めている。その理由の一つは、少人数の分娩担当医だけでお産を取り続けることが、医療事故につながってしまうかもしれないというリスクがあることである。

また、距離の問題もあり、糸魚川の場合は上越市、黒部市までは約1時間必要であり、こういった地域が日本全国にあることは間違いないことで、そこで安全に分娩をどうやって続けるかということが非常に重要なことだと思っている。病院を集約化して大きな病院をぽつぽつと作るということも重要だが、その間に挟まれる地域に対して連携をとっていくことが大事である。今回、日高先生に糸魚川総合病院へ来てもらって一番良かったのは、黒部市民病院とのデジタル連携である。情報を共有化することによって、少ない産婦人科医でも安全に分娩し続ける可能性はまだ残されていると思っている。そこで重要なのは、糸魚川の話で言えば、糸魚川総合病院の産婦人科に1回関わっていただくということである。情報の共有化が必要であり、黙っていたら、上越の病院の情報は糸魚川総合病院には入らない。何かあった時に素早く対応するため、どこに行ったら良いかを判断するためには情報が必要である。この先のことを考えると病院、市、関係団体が色々な対策を考えてくれるが、一番重要なのは市民の皆さんである。皆さんと一緒にどうやっていくかということを考え続けなければならない。今日参加したメンバーを中心に、糸魚川の産科・分娩の灯を消さないように頑張っていきたいと思うので、ぜひご協力をお願いしたい。

(糸病：山岸 病院長)

妊娠診断や妊婦健診は糸病で受けることは出来るのでしょうか？

閉会のあいさつ（糸魚川総合病院 病院長 山岸 文範）

先ほど僕自身が皆さんにお願いしたいと考えていたことを述べる機会をいただいたが、私個人も病院も、糸魚川市も県も、産婦人科医の募集を停止したわけではない。今も継続しており、手挙げがあれば、その可能性を探っていきたいと思っている。ただ、世の中のその進みというのは、やはり集約化に向かっていると思う。しかし、集約化によって実は良いこともある。別の機会にそのデータを皆さんにお示ししたい。皆さんの健康、子供さんの安全性などを含め、小さな病院がいくつもあるよりは、大きな病院があって、それに連携していくというシステム自体が非常に重要な鍵であり、これから糸魚川のみならず、日本全体を助けていくものだろうと思っている。

私達は人口が減るというところで、こういった目に遭っている訳だが、僕が生まれた昭和の時代、このときは人が増え、ものが大きくなる時代。平成の30年間というのは何も変わらなかった。僕ら自身が僕も含めてですけども、ものを考えるということをおぼれていた。10年前に日本の人口のピークが来て、今減り始めている。この中で僕らはそれを危機と呼ぶこともあるが、チャンスでもあると思う。必ず、より良い医療を提供できるようなものが作れるというふうに僕は考えているし、その方向で物事を進めていきたいと思っている。その中で先ほどもお話ししたが、一番重要なのは皆さんの参加である。決して国とか県とか、それから単独の病院に任せることなく、皆さんがそれぞれ情報、意見を発信していただきたい。そして、協力しながら物事を前に進めていきたいと思う。その事をお願いして、今日のフォーラムの終わりの挨拶にさせていただきます。本当に長い時間、ありがとうございました。